

# 環境マネジメント

## 方針

IHIグループは、「グループ経営方針2019」において持続可能な社会に求められる新たな価値の創造を目指しています。これにより、IHIグループは、気候変動をはじめとする社会課題の解決に向け、社会システム全体の環境負荷低減に継続的に取り組むことで、ビジネス機会の獲得や新しいビジネスモデルの創出につなげるという環境経営の目指すべき方向性をより明確化しました。

これまで重点的に取り組んできた環境法令の遵守、工場・事務所における地域社会への環境負荷低減に継続的に取り組むとともに、製品・サービスのライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量を指標に、低炭素・脱炭素に向けたビジネスを提案していきます。

## IHIグループ環境基本方針

(環境管理体制の構築)

**第1条** 環境管理体制を構築し、具体的な目的・目標を設定して確実に実行・評価し、継続的改善を図る。

(環境法令等の遵守)

**第2条** 環境関連法令・協定および関連業界の方針・計画を遵守するとどまらず、必要に応じ自主管理基準を定めて運用し、環境管理の向上に努める。

(環境に配慮した製品の提供)

**第3条** 地球環境の負荷低減に貢献する製品・サービスを社会に提供する。

(事業活動における環境負荷低減)

**第4条** IHIグループのすべての事業活動において環境保全および環境負荷低減に努める。

(環境教育)

**第5条** 環境教育を通じて、IHIグループ各社の役員、従業員、派遣社員等、業務に従事するすべての者の環境意識を高め、自らが環境問題に関心を持ち、行動できるようにする。

(情報開示)

**第6条** 地域社会との融和および地球環境の保全のために、社会活動への参加と情報開示およびコミュニケーションを積極的に行う。

## 環境マネジメント

### 体制

#### ●環境委員会

IHIグループは、全社を統合する環境委員会が環境活動を担っています。環境委員会の決定事項は、事業領域・SBU環境管理責任者連絡会などが国内および海外グループ会社までの周知・展開を図ります。

事業領域やSBUでは、グループ全体のリスク管理活動のひとつである環境リスク低減のための環境設備投資、法規制への対応、省エネ、廃棄物排出量の削減など環境負荷低減に取り組んでいます。これらの個別テーマに沿った環境活動計画を年度初めに立案し、進捗を含めてフォローアップし、PDCAサイクルを回します。

2019年度に、製品・サービスを通じた環境負荷低減を「攻めの環境活動」、工場・事務所などの環境負荷低減を「守りの環境活動」として位置付け、前者を経営企画部、後者を総務部環境グループが事務局を務め、環境委員会の活動を強化しました。

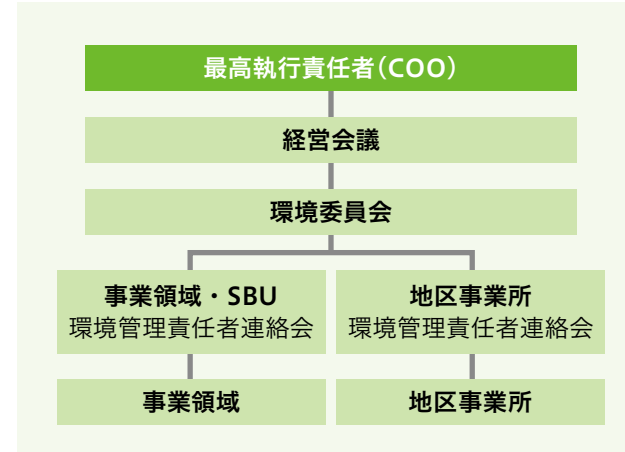
※SBU：Strategic Business Unit(事業領域傘下の戦略的事業単位)

#### ●ISO14001(環境マネジメントシステム)

IHIグループは、主要な生産拠点を中心に、各環境管理拠点でEMS(環境マネジメントシステム)を確立し、環境管理活動のPDCAサイクルを回しています。また、各環境管理拠点でISO14001認証を取得し、EMSの国際レベルを担保しています。

IHIグループにおいて一定以上の生産規模を有する環境管理拠点のうち、約75%の拠点でこのEMSを取得しています。EMSは、各環境管理拠点の事業活動に最適な審査機関で取得しています。

### 環境管理体制図



委員長	総務関連事項担当役員
事務局	総務部環境グループ、経営企画部
委員	事業領域、地区事業所および委員長が指名する本社部門における環境統括責任者
2019年度の開催回数	4回

#### ●ISO14001内部監査・外部監査

IHIグループは、ISO14001に基づくEMSの適合性と有効性を、各環境管理拠点で定期的実施される内部監査・外部審査を通じて評価し、改善を繰り返して環境管理レベルの向上に努めています。

2019年度の外部審査では、ISO14001認証取得の全環境管理拠点で改善指摘事項がなく、ISO14001の要求事項に適合したEMSの維持を確認しました。

#### ●環境情報の収集

IHIグループは、海外グループ会社を含む連結対象会社を環境管理の対象として、環境情報を収集しています。

グループ各社から環境統括責任者・環境管理責任者を選任し、自社の環境活動に係る意思決定と環境活動の展開を図ります。さらに各社の環境活動の最小単位である環境管理拠点では拠点環境管理者を選任し、環境活動に係る実務を担当しています。

環境管理対象となるグループ各社の事業形態は、工場を有し生産活動を行なう会社、エンジニアリングと現場での建設工事を主体とする会社、工場を持たず事務所部門のみの会社などさまざまです。環境管理拠点ごとに、エネルギーや水などのフローを確認し、効率的に環境情報を収集する仕組みを構築しています。

なお、2019年度の環境情報は、2020年8月31日時点で集計した数値です。

#### ISO14001認証取得の割合

(対象：IHIおよび関係会社)

項目	2019年度
ISO14001認証取得の割合	75%

## 環境マネジメント

### 教育・浸透

#### ●環境教育

IHIグループの環境教育には、全社的な教育プログラムと、各環境管理拠点の管理担当者などを対象とした教育があり、本社が主導して実施しています。

全社教育では、グループ横断的なサステナビリティ講座を行ない、その中で喫緊の課題である気候変動への対応をテーマとしたe-ラーニングを実施しました。また、階層別研修の入社3年目従業員を対象に「ものづくり企業の基本（環境編）」と題した、地球環境問題への取り組み姿勢を再認識させるe-ラーニングを実施しました。

拠点教育では、省エネや廃棄物管理について外部専門家による研修を実施しています。この研修は、各環境管理拠点における有資格者と管理担当者の専門的資質向上が目的で、法令遵守の徹底とより効率的な環境活動の実践を目指しています。

また、毎年6月を環境月間と位置付け、従業員の環境意識の底上げを図るための環境クイズを実施するほか、各環境管理拠点でEMSに基づいた教育を実施しています。

#### 環境教育・研修の受講者数

(単位：名、対象：IHIおよび国内関係会社)

対象者	教育内容	2019年度
従業員	e-ラーニング※1	18,447
	環境クイズ	5,820
環境担当者	省エネ集合研修※2	36

※1 e-ラーニング受講率：83.4%

※2 受講者数は、事務局と講師を除く

### 目標

IHIグループは、3か年ごとに環境活動計画を立てて環境活動に取り組んでいます。

2019～2021年度の3か年計画「IHIグループ環境活動計画2019」は、「製品・サービスを通じた環境負荷低減」、「工場・事務所などにおける環境負荷低減」、「環境経営を進めるための人づくり」の3つの柱で構成しています。

### 実績

#### 環境負荷低減コスト

(単位：億円、対象：IHI)

項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
投資額	8.64	7.13	6.96	6.52
費用額	0.73	0.79	1.43	0.78

#### 環境関連設備投資

(単位：百万円、対象：IHI単独の工場・事業所)

種別	投資金額※1	投資効果※2	主な内容	環境負荷抑制効果※3	リスク抑制効果※3
省エネ・温暖化対策	200	17	工場内個別空調設備の導入など	使用エネルギーの減少およびCO <sub>2</sub> 排出量の削減	重大な環境法令違反と環境事故発生ゼロ
環境リスク対策	445	—	老朽化設備の更新など		
合計	645	17			

※1 2019年度IHI単独の工場・事業所で実施された環境関連設備費用を表します

※2 年間で削減が見込めるエネルギー購入コストを表します

※3 考え方と効果の把握については今後さらに検討を進めていきます

### IHIグループ環境活動計画2019

活動計画	目標
製品・サービスを通じた環境負荷低減	製品・サービスのCO <sub>2</sub> 排出量低減
工場・事務所などにおける環境負荷低減	環境法令違反と環境事故発生ゼロ
	2021年度のCO <sub>2</sub> 排出原単位を2018年度比で3%低減
	2021年度のエネルギー消費原単位を2018年度比で3%低減
環境経営を進めるための人づくり	2019～2021年度の廃棄物排出量は、2018年度の量を上回らないこと
	2019～2021年度の取水量※は2018年度の量を上回らないこと
環境経営を進めるための人づくり	環境経営を実践できる人材の育成

※2019年度より水資源使用量から取水量へと名称を改めました。